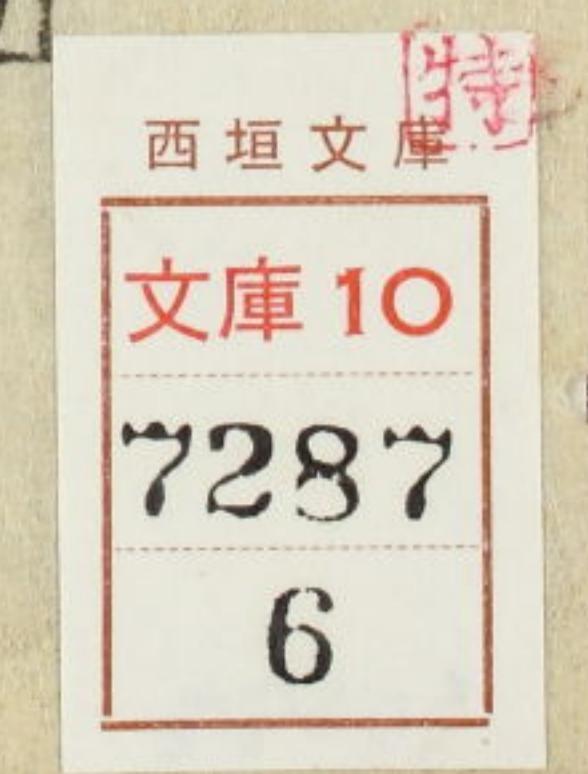




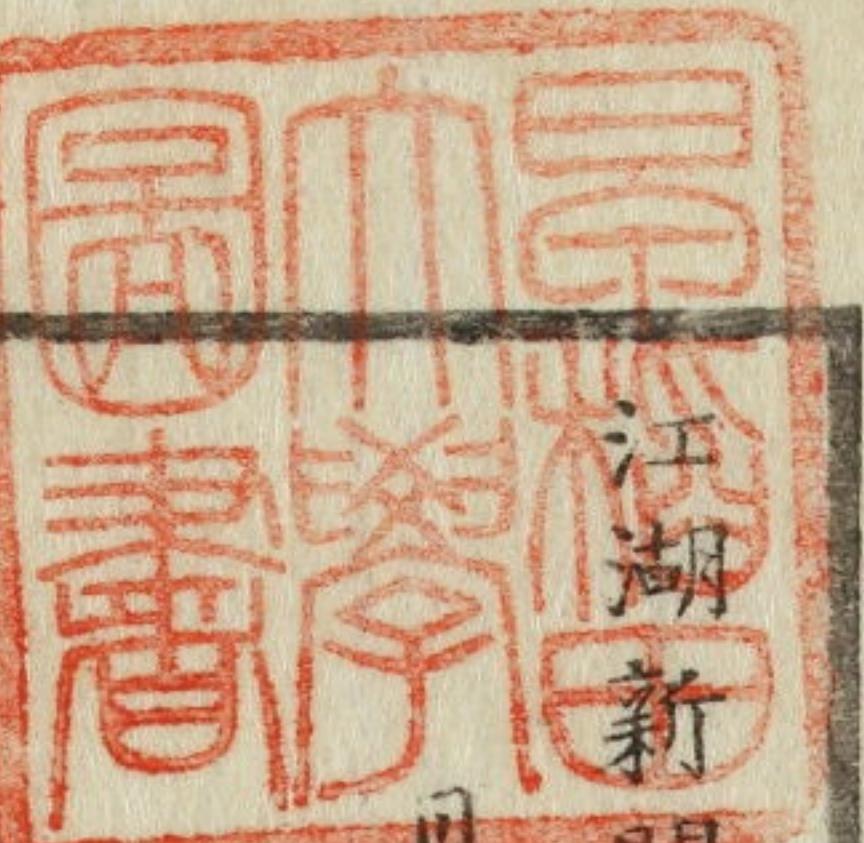
江湖新聞
第六號

宣價八分



A vertical ruler scale with markings every 1/16 inch. The numbers are large and bold, with the first two inches (0-1) in red and the remaining eight inches (1-10) in black. The word "JAPAN" is printed vertically in red at the bottom of the scale.

特文庫10
7287
6



江湖新聞第六号

慶應四年戊辰閏四月十二日

日本改作あまび内犯の範

模倣立國洋人某の著せらるて本國縁事書之送り

たゞと玄余放逐其筆者と將來が文へ長文さればその

大略を摘要と交ふ出で全文へ追加翻譯ノ別冊を出しへ

論考者 帝の政府を称考一回政府を唾棄するより前大君

お立祖一新政府を讐言税考あり何れもそ見同感心へされ自

己の私情不徳を譲一正論と云はゞく歐の諸邦ふありと

日本が政体國制を却くざるゝの微小影響の範ふ傳り成教と

既てその形勢を繪せん大き。繆を引出まへて余今を大略を概説
其ノ抑往川家の政体。家康公以来二万數十年も同封縣の
制度ゆえ諸侯を鉗制。歐洲中古と扱まう。唯吳を除へ
帝あると有らまると。己外國の交際暗りて。日中の諸侯皆
自立自立の政權ある。ナセ悟り隠。徳川家の馴熟を免へ。而
此付ふあつて。徳川家の制度を更張すべき威權漸く衰微。
強弩も束勢不顯を且つ南方會興。之為。帝を擁せしむ
前大至京都の戰ふ故。二朝。祖先傳承の大權を失へ。車勢
の終つゝむる處されども。帝家の大旆。日々人、氣を今ひそ
まかの脅す。ナセ悟り。叔令學の方へ。三藩と称せりの魁首と云う

其余の諸侯の班。並列せしる。追う。政事を據るの法。帝を戴き
議院を設け。議官を置。輿論を同。歐洲主君裁制の國体を據
模。頗る開化を知るが如く。されども。車業の金紀事。をねざる
屬。其故何ぞ。凡そ主君裁制と政治改修を行ひる。の勢を考る
ふ。封縣より直ち。蒙裁制小妻せしものぞ。及今。帝を政府ある。定
額の兵員。金額。ボヘ等。会盟。ヨウ。出。モ。西。ア。ト。会盟。一慶。及。解。サ
帝の再び原の宣位を推し給ひ。これ政府の實權。京師の内。ア
リ。ヨ。ク。モ。ナ。據。ヨ。リ。且。は。会。盟。の。徳。川。家。を。偏。執。モ。ル。の。一。会。シ。初。キ。ア
ミ。隣。私。主。を。押。シ。既。ハ。長。崎。モ。ア。ニ。藩。の。確。執。起。キ。ア。ト。マ。ケ。ア

○ 倉敷の兵は戸小東り前大君は戸跡をより捨ひしを殆んと
一月未及ばず江戸市中へ依然として倉敷が復せし且ツ仙臺も
倉敷が被ひ城邊侯源田光平總の兵源豫起^{ハシタマツキ}と徳川家を
助く倉敷の兵さ^{ハシタマツキ}昨日の勢^{ハシタマツキ}と同^シ成^スに曰く 帝の
勅使^{ハシタマツキ}近^カきに戸を差^{ハシタマツキ}べ^トと果^{ハシタマツキ}して然^{ハシタマツキ}う模演^{ハシタマツキ}ハ再び
徳川家の有^{ハシタマツキ}を^{ハシタマツキ}遷^{ハシタマツキ}み日^{ハシタマツキ}ギニワ^{ハシタマツキ}が^{ハシタマツキ}の勢^{ハシタマツキ}ハ亦^{ハシタマツキ}内乱うち
続^{ハシタマツキ}きを平^{ハシタマツキ}ミ日^{ハシタマツキ}あ^{ハシタマツキ}ま^{ハシタマツキ}るべ^ト

○ 外國公使^{ハシタマツキ}ハ主^{ハシタマツキ}中立不偏^{ハシタマツキ}の觀^{ハシタマツキ}を留^{ハシタマツキ}、是^{ハシタマツキ}迄^{ハシタマツキ}の條約^{ハシタマツキ}を改^{ハシタマツキ}め今^{ハシタマツキ}四^{ハシタマツキ}帝^{ハシタマツキ}を日本^{ハシタマツキ}の君主^{ハシタマツキ}と認^{ハシタマツキ}め日^{ハシタマツキ}又^{ハシタマツキ}前大君^{ハシタマツキ}を政府^{ハシタマツキ}と名^{ハシタマツキ}け日本^{ハシタマツキ}の國^{ハシタマツキ}勢^{ハシタマツキ}を殺^{ハシタマツキ}、御^{ハシタマツキ}車^{ハシタマツキ}を保^{ハシタマツキ}えんと欲^{ハシタマツキ}せりこれ万國公法^{ハシタマツキ}の法^{ハシタマツキ}義^{ハシタマツキ}と確^{ハシタマツキ}定^{ハシタマツキ}す

余^{ハシタマツキ}が所見^{ハシタマツキ}めど之^{ハシタマツキ}を西洋^{ハシタマツキ}小施^{ハシタマツキ}す^{ハシタマツキ}べ^ト之^{ハシタマツキ}を東洋^{ハシタマツキ}小施^{ハシタマツキ}す^{ハシタマツキ}べ^ト
今^{ハシタマツキ}東洋^{ハシタマツキ}守^{ハシタマツキ}職^{ハシタマツキ}の民^{ハシタマツキ}漸^{ハシタマツキ}く開化^{ハシタマツキ}の城^{ハシタマツキ}小進^{ハシタマツキ}まんとせ^{ハシタマツキ}る事^{ハシタマツキ}あれば之^{ハシタマツキ}
を^{ハシタマツキ}懐^{ハシタマツキ}之^{ハシタマツキ}を^{ハシタマツキ}渝^{ハシタマツキ}一^{ハシタマツキ}造^{ハシタマツキ}物^{ハシタマツキ}主^{ハシタマツキ}候歐洲^{ハシタマツキ}の人^{ハシタマツキ}を顧^{ハシタマツキ}憂^{ハシタマツキ}せむ恩^{ハシタマツキ}小報^{ハシタマツキ}め^{ハシタマツキ}ば^{ハシタマツキ}也^{ハシタマツキ}
あ^{ハシタマツキ}るに^{ハシタマツキ}て内亂^{ハシタマツキ}を^{ハシタマツキ}鼓^{ハシタマツキ}舞^{ハシタマツキ}一^{ハシタマツキ}生民^{ハシタマツキ}の兵^{ハシタマツキ}刃^{ハシタマツキ}不^{ハシタマツキ}若^{ハシタマツキ}む^{ハシタマツキ}と^{ハシタマツキ}傍観^{ハシタマツキ}せ^{ハシタマツキ}天^{ハシタマツキ}
理人道^{ハシタマツキ}二^{ハシタマツキ}口^{ハシタマツキ}金^{ハシタマツキ}もざ^{ハシタマツキ}ぐべ^ト況^{ハシタマツキ}や日^{ハシタマツキ}本^{ハシタマツキ}の内亂^{ハシタマツキ}お續^{ハシタマツキ}く^{ハシタマツキ}交^{ハシタマツキ}易^{ハシタマツキ}の
利^{ハシタマツキ}も^{ハシタマツキ}増^{ハシタマツキ}る衰^{ハシタマツキ}條約^{ハシタマツキ}の甲^{ハシタマツキ}斐^{ハシタマツキ}多^{ハシタマツキ}小^{ハシタマツキ}及^{ハシタマツキ}ぶべき^{ハシタマツキ}第^{ハシタマツキ}四^{ハシタマツキ}曰^{ハシタマツキ}く^{ハシタマツキ}夢^{ハシタマツキ}う^{ハシタマツキ}外^{ハシタマツキ}國^{ハシタマツキ}政^{ハシタマツキ}府^{ハシタマツキ}も^{ハシタマツキ}何^{ハシタマツキ}れ^{ハシタマツキ}と^{ハシタマツキ}助^{ハシタマツキ}け^{ハシタマツキ}何^{ハシタマツキ}星^{ハシタマツキ}を^{ハシタマツキ}退^{ハシタマツキ}く^{ハシタマツキ}へ^ト故^{ハシタマツキ}曰^{ハシタマツキ}く^{ハシタマツキ}日^{ハシタマツキ}本^{ハシタマツキ}人民^{ハシタマツキ}の過^{ハシタマツキ}暮^{ハシタマツキ}せ^{ハシタマツキ}る
威^{ハシタマツキ}權^{ハシタマツキ}ある^{ハシタマツキ}人^{ハシタマツキ}多く^{ハシタマツキ}吾^{ハシタマツキ}曹^{ハシタマツキ}の^{ハシタマツキ}爲^{ハシタマツキ}め^{ハシタマツキ}好^{ハシタマツキ}友^{ハシタマツキ}良^{ハシタマツキ}人^{ハシタマツキ}を^{ハシタマツキ}助^{ハシタマツキ}く^{ハシタマツキ}べ^ト之^{ハシタマツキ}造^{ハシタマツキ}る
の外^{ハシタマツキ}國^{ハシタマツキ}交^{ハシタマツキ}際^{ハシタマツキ}を^{ハシタマツキ}回^{ハシタマツキ}想^{ハシタマツキ}せ^{ハシタマツキ}ば^{ハシタマツキ}自^{ハシタマツキ}身^{ハシタマツキ}人^{ハシタマツキ}あり^{ハシタマツキ}、^{ハシタマツキ}試^{ハシタマツキ}み^{ハシタマツキ}み^{ハシタマツキ}る^{ハシタマツキ}前^{ハシタマツキ}大^{ハシタマツキ}君^{ハシタマツキ}の
或^{ハシタマツキ}は^{ハシタマツキ}其^{ハシタマツキ}の諸^{ハシタマツキ}侯^{ハシタマツキ}倉^{ハシタマツキ}敷^{ハシタマツキ}の^{ハシタマツキ}妙^{ハシタマツキ}化^{ハシタマツキ}日^{ハシタマツキ}本^{ハシタマツキ}を^{ハシタマツキ}回^{ハシタマツキ}復^{ハシタマツキ}せ^{ハシタマツキ}ば^{ハシタマツキ}必^{ハシタマツキ}に^{ハシタマツキ}の^{ハシタマツキ}外^{ハシタマツキ}

國政府に信するふとくば朋友の難を救ひば條約の大眼同
このひびき伝義の實行よりと東洋に於て我國の英名を
失ひ失ひまるといふ今日の一舉があり或は曰く日本北方にあつて
密々前大老を助けん事を欲せり一反ありと魯西亞と云次二の事実
よりハ歐州の諸強國の止車を以て 帝政府を助け東洋の
御軍を保つめ策を更に再び渤海さくほ、戰を東洋に開け殺十萬の
生血を以て日がふ洒くべれりと云

此文ハ模漢ヘラルト新開紙記者の著すふみて既に中國
送了の新寫紙小裁せ刊行せりとよく知るや否やと
あらば

當海上旬水をもて梅海まいかい某の足牙あしあ人亡兒の高たか復讐
せ一車ありもせずとの足牙先年左半山乳うそ小書生黨とう
穀こ一老なりと云

總州水松年大和ち底そこの陣ぢんありあ月二日腰毛ひざの毛け腰こし
お之陣そ引後ひ模掛合もくかああり少すくな一小时じご日追延おほな入い四日よ
より陣ぢん底そこ領りようの重役じゆぎょく某切ちぎ後ご之の上うるの後の朝あさと
陣ぢん底そこ全穀ぜんこくお庭にわへ立たつ也

四月二日出被模漢ヘラルト新支紙の作

此船會泊の本據新松の近所にて友軍と會津兵の会隊
戰車小及び一巡友軍の隊長陣役一兵士三百人生捕を
たりとの報告を乃うも寧々雲を初めされた船旗不ぶの如ヤ

同七日ベラルト新支紙と作

廿六日英國蒸氣軍艦サラミス船模漢入港英國ニニストルハリ
ハリクス及び附屬の士官一同該船より來矣せり

英國ニニストルは未金曜日即ち四月朔日

帝に揮擧ひし翌二日同國水師提督ハリクスフル太名三人を
ロドニー船へ招待せうる大名中の一人ハ

帝の為みの叔父ニ當る人なりと云

右のサラミス船ハ既自夕方舟六時再び兵庫を向ケ出帆せり

模漢

○

ゴローブホテルといふ旅店ふドモニーと云人止宿せ一ヶ月五日
夜三時半と壁を覺ませてニ火光滅一寢室の扉半びひしき
隙間より明り遠て見え隠れ跫音ありてモ室セ過ぎ扉の方
小柱なるがめードモニー起立と捕えモ頭髪セ見シテ一婦
へきり四人のうち起來りて牆セ強ト同宿の者又三人あつて
捕えモ婦人を召すに之顏色更小憚れむき姿態も多く誠
情判然より蓋一此誠婦也光少て物セ盡シより此品の如セ

擧々中一を後焼と減一もうりん最初の方へつうと輝せ
様々言の多見とせ一が誠品の院擴あより盜械改方の手引
後まきよとの結果如何ぞべきの意と之を問ひ

○
今度因安中納言大久保一翁勝安所に之戸表を縛り認め
由委任てお尋ね付す御端後左文
間政院ある所中渡ゆ

宝四月七日

海軍府

執事

